

遊墨画家

小倉 無一 さん  
(双海町上灘)

「美しいものをどう表現するかは一人一人の自由。好きなものを自分なりに描けばそれでいいんですよ。」



優しく、どこか懐かしい墨の匂いが漂う小倉さんのアトリエ。「今日、散歩していたら、彼岸花がきれいに咲いていたからもらってきたんですよ。」花瓶に生けられた真っ赤な彼岸花の周りには、壁に掛けられた墨絵や水彩画、整然と並べられた筆や硯。



京都市に生まれ、京都市立芸術大学卒業、5年後には、25年間のヨーロッパ遊学など、芸術家として活躍する小倉さん。ヨーロッパ各国や日本各地で個展・グループ展の開催、名立たる美術館への招待出品や作品の所蔵など、数々の功績を残しています。

「小学生のころから絵を描くのが好きでした。高校2年のとき、美術の道に進もうと決意しました。美術の専門的な知識がなく、好きという気持ちだけでしたが、大学に入って、デッサンやクロッキー(短時間で早く描く素描)を学びました。」

オランダに定住しているときは、オランダの大学講師や政府買上げ作家推薦となり、またその作品は、墨絵にとどまることなく、光とプラスチック、音楽を融合させた幻想的な作品なども製作しています。

帰国後は、愛知県や久万高原町、西予市、そして今年双海町に移住しました。

「妻の故郷が愛媛なので、この地にきました。今は、松山や八幡浜で遊墨画教室を行っています。受講生には、好き



なものを自分なりに描けばいいって教えています。」

「墨絵を描くときには、一気に描き上げます。油絵のように描き足すことはできない。頭にイメージした自然の美しさを真っ白のキャンバスに切り取ります。」

現在、墨絵のほかにも、水彩画・木の彫刻、陶芸などのさまざまな作品を製作。固定観念や決まった枠にとらわれない感性で、作品づくりを行います。



小倉無一さんの作品は、双海地域事務所ロビーに展示しています。